

氏名	徳 永 俊
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 216 号
学位授与の日付	昭和42年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	固視の研究 第1報 眼位による固視点の変動について 第2報 諸種検査法による弱視眼固視状態の検査結果について 第3報 非観血的療法による弱視療育成績と固視状態との関係について 第4報 斜視手術による異常固視弱視眼の固視状態の変化について
論文審査委員	教授 奥田 観士 教授 西田 勇 教授 福原 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者の考案した装置による残像を利用して眼位の変化による固視点の変動を観察し、正常眼に比し、弱視眼では大きな変動がみられた。第1眼位において、7種の方法によって弱視眼の固視状態を検査し、各法を比較検討した結果、Visuscopeによる方法が、固視の動揺性、偏心度、偏心方向の精細な診断が可能なることから、最も優れていると考えた。

次に、療育による固視移動を追求して、移動様式を7型に分類し、それが療育成績に重要な意義をもつものと考えた。更に、中心外固視を有する斜視弱視において、斜視手術翌日の検査で、過半数に固視状態の変化を認め、それが術後の療育に伴って種々の経過をたどることから、中心外固視の移動には、眼筋因子の他に、抑圧等に基く感覚的因子が関与するものと考えた。

第1報：日本眼科紀要 第14巻第6号（昭和38年7月15日発行）に掲載

第2報：日本眼科紀要 第14巻第7号（昭和38年8月15日発行）に掲載

第3報：日本眼科紀要 第15巻第1号（昭和39年2月15日発行）に掲載

第4報：日本眼科紀要 第15巻第2号（昭和39年3月15日発行）に掲載

論文審査の結果の要旨

本研究は弱視眼において療育の経過と共に固視点の移動が起ることを詳細に検討し、これを7型に分類した。各型は治癒経過と一定の関係を示すことを発見し、弱視の予後判定上大きな根拠を与えたもので価値ある業績である。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。